

「夢の島」

先日、テレビのバラエティー情報番組で、江東区にある「夢の島」を取り上げていた。江東区に住む50歳以上の人なら、「夢の島」＝「ゴミの島」というイメージが強い。現在はゴミの焼却施設だけではなく、スポーツ施設や野球場、公園、植物園があり、東京オリンピック2020では、アーチェリー会場にもなった。ただ、それ以前はゴミの廃棄場所であった。ゴミの悪臭はもちろんだが、ハエの大発生やゴミ収集車の往来が江東区民を苦しめた。何で他区のゴミまで引き受けなければならぬのかと、「ゴミ戦争」といわれる事態までなった。それを契機として、各区では焼却施設ができることになった。江東区民の私でもその番組で知ったことなのだが、「夢の島」は本当にドリーム・アイランドにするつもりだったらしい。実際に東京湾に面した砂浜に海水浴場を作り、「東京のハワイ」にする計画だった。でも、3年で閉鎖された。その後にはゴミが持ち込まれるようになる。

ゴミの焼却施設というと汚いイメージがあるが、今はそれがかなり進化しているという。広島市にある焼却施設「エコリウム」は美術館のような整備された施設で、観光で訪れる人も多いという。見学は無料。排煙は何重にもフィルターを通すことにより、透明な煙しか出ない。しかも高温で償却するため、ダイオキシンは出ない。焼却の熱は電気に代わる。そんな施設だから、街中にあり、ゴミの輸送費用も半減する。まさにSDGsにぴったりの施設なのだ。その番組で、日本はゴミの焼却施設が世界一多い国と紹介していた。それだけ、ゴミをきちんと焼却処分しているのである。反面、それだけゴミが出ていることでもある。

一方、北欧のスウェーデンでは「リサイクル革命」が起きている。この国では、家庭ゴミのうち処理場に埋められるゴミは、もはや1%にも満たない。半分は燃やして熱をリサイクル、3分の1はリサイクルし、製品の原料にする。16%は生ゴミなどで肥料にし、バイオガスを生産する。そのため、かなり細かいゴミの分別が求められる。分別すれば、ゴミは立派な資源なのである。

1月19日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1から300まで数字の書かれたカードがある。今、4の倍数の数字のカードを小さい方から順に並べたとき、カードは何枚並びますか。また、数字は何個並びますか。